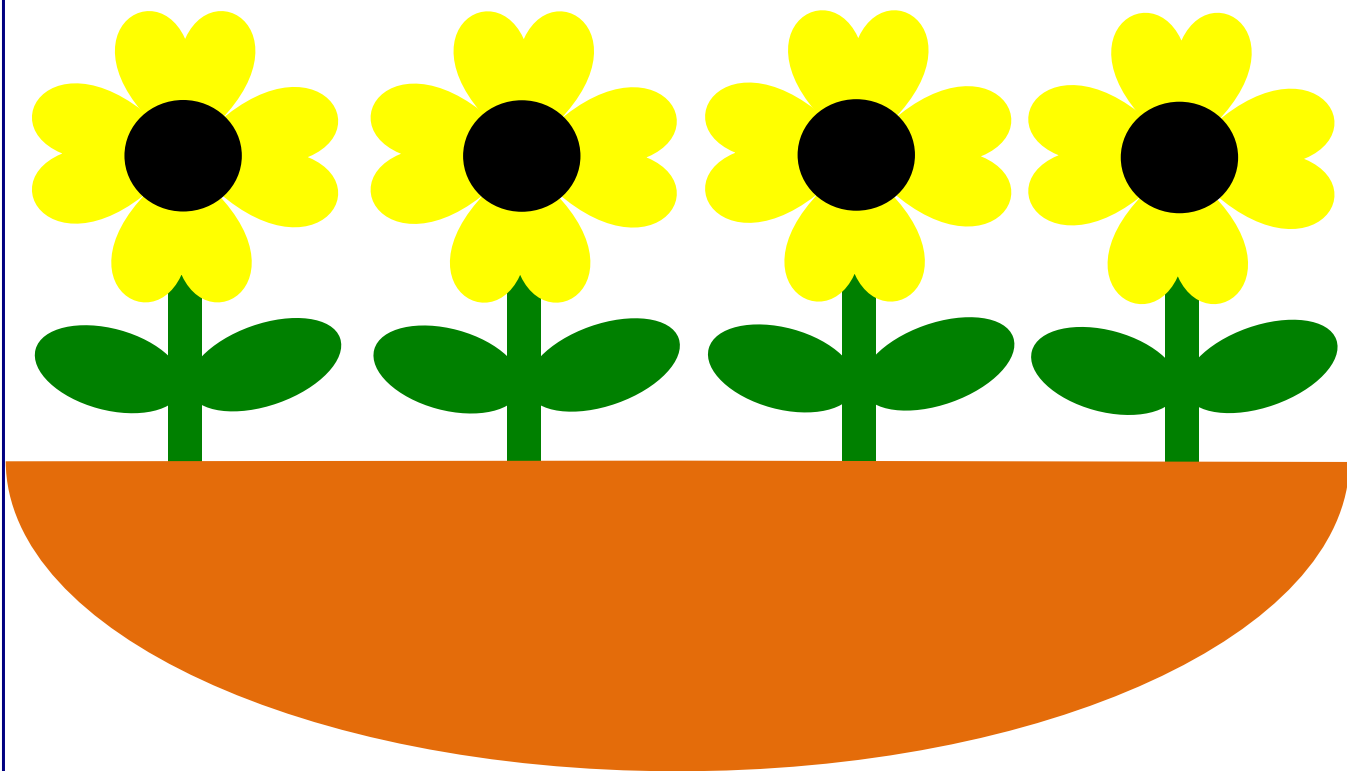


2016 (平成28) 年度年賀寄附金配分事業

活用事例




日本郵便株式会社





活用事例目次


1. 活動・一般		
1-1	特定非営利活動法人 フローレンス（東京都千代田区）	1
1-2	社会福祉法人 わたぼうしの会（奈良県奈良市）	2
1-3	特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク SPAN（東京都港区）	3
1-4	特定非営利活動法人 群馬ダルク（群馬県高崎市）	4
1-5	特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会（東京都千代田区）	5
1-6	特定非営利活動法人 美ら海振興会（沖縄県那覇市）	6
1-7	特定非営利活動法人 日本ファンディング協会（東京都港区）	7
2. 活動・チャレンジ		
2-1	特定非営利活動法人 湘南市民メディアネットワーク（神奈川県藤沢市）	8
2-2	特定非営利活動法人 エコ・モビリティ サッポロ（北海道札幌市）	9
2-3	特定非営利活動法人 メリーゴーランド（秋田県能代市）	10
2-4	公益社団法人 全国少年警察ボランティア協会（東京都千代田区）	11
2-5	特定非営利活動法人 すいた体験活動クラブ（大阪府吹田市）	12
2-6	公益財団法人 神奈川県聴覚障害者協会（神奈川県藤沢市）	13
2-7	特定非営利活動法人 芸術資源開発機構（東京都杉並区）	14
3. 施設改修		
3-1	特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校（青森県西津軽郡）	15
3-2	特定非営利活動法人 どんぐりコロコロ（岡山県津山市）	15
3-3	特定非営利活動法人 地球の緑を育てる会（茨城県つくばみらい市）	16
3-4	特定非営利活動法人 九州補助犬協会（福岡県糸島市）	16
4. 機器購入		
4-1	特定非営利活動法人 ひまわりの家（広島県三原市）	17
4-2	社会福祉法人 朝来市社会福祉協議会（兵庫県朝来市）	17
4-3	特定非営利活動法人 秋川流域生活支援ネットワーク（東京都あきるの市）	18
4-4	特定非営利活動法人 ウッディ阿賀の会（新潟県新潟市）	18
5. 車両購入		
5-1	社会福祉法人 秋田ふくしハートネット（秋田県仙北市）	19
5-2	特定非営利活動法人 あしの会（北海道札幌市）	19
5-3	特定非営利活動法人 農楽郷ここ・カラダ（旧名：農楽郷 hibiki）（青森県十和田市）	20
5-4	社会福祉法人 ふじみ野市社会福祉協議会（埼玉県ふじみ野市）	20
6. 東日本大震災の被災者救助・予防		
6-1	特定非営利活動法人 みやぎ子ども養育支援の会（宮城県石巻市）	21
6-2	特定非営利活動法人 生命と環境保全（宮城県白石市）	22
6-3	特定非営利活動法人 北海道ふるさと回帰支援センター（北海道札幌市）	23
6-4	特定非営利活動法人 吉里吉里国（岩手県上閉伊郡）	24

1. 活動・一般プログラム

事例 1-1	特定非営利活動法人 フローレンス（東京都千代田区）
事業名	医療的ケアが必要な障害児の発達と親御さんの就労を支える居宅訪問保育事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とした事業
配分額	500 万円
<p>【事業内容】</p> <p>保育園に入ることができない重症心身障害者や医療的ケアを必要とする未就学の障害児に、「子ども・子育て支援制度」に基づく地域型保育給付内の居宅訪問保育を行い、子どもたちの発達と親御さんの就労ができる環境を提供する事業。</p> <p><実施成果></p> <p>①サービス対象地域の拡大 →東京都内2区（新宿、豊島）から新規5区（港、練馬、品川、渋谷、北）追加さらに7区において自治体認可を取得。</p> <p>②利用者数の拡大 →3家庭から新たに17家庭に増加。</p> <p>③保育士の養成 →既存3名から新たに20名の新規スタッフを採用・育成。</p> <p>④保護者の職場復帰 →利用者のうち3名が職場復帰。</p> <p><利用者のアンケートの声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育スタッフの方が、非常に熱意を持って対応してくれるので、信頼できる。 ・フローレンスのみなさんが、障害児を持つ家族の環境をなんとかしたいと心から思ってくれているのが伝わる。 ・子どもの精神発達が非常に進んだ。たくさん話かけてもらい、いろんな遊びを一緒にしてもらえるおかげで、多様な反応がでてきた。 ・丁寧にマンツーマンで保育していただいているおかげでたくさんのことができるようになったと思っています。親が自宅で孤立して介護しているだけではあり得なかったような成長を感じます。 	
<p>【参考写真】</p> 	

事例 1-2	社会福祉法人 わたぼうしの会（奈良県奈良市）
事業名	障害のある人たちの所得向上のための商品の開発・生産及び流通事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	500 万円
<p>【事業内容】</p> <p>障害のある人たちが、地場産業・クリエイターと協働で魅力的な商品を開発・生産する拠点づくり及び障がいのある人たちの所得向上を目的として、「GOOD JOB STORE」という倉庫兼店舗づくりの作成を行う事業。</p> <p><実施成果></p> <p>①全国の福祉事業所で生産されている商品の販売及び製品開発。また製品の二次使用によりロイヤリティを獲得。 年間売上：2,132 万円</p> <p>②2016 年度グッドデザイン賞 「グッドデザイン金賞」受賞 (約 4,000 件の応募の中、14 組の選出)</p> <p>③奈良県景観デザイン賞 「知事賞」「建築賞」ダブル受賞</p> <p>④「新建築」、「GA JAPAN」、「事業構想」等、多くのメディアに取り上げられた。</p> <p>今後も、販売先を増やすことで、安定した収入・増収を目指す。</p> <p><GOOD JOB!センター訪問者からのコメント></p> <p>エントランスと工房の境界は解放されており、カフェやショップに訪れた人が工房で働く姿を垣間見ることができる。真剣につくる人の姿を見れば、そこでつくられたものの価値に気付くだろうし、それが低賃金で働かざるを得ない障害者の就労問題に気づききっかけになるかもしれない。</p> <p>知らないせいで遠くにあったものが、ふとしたきっかけで身近になって愛着が生まれる。GOOD JOB!センターの活動が中心となり、そんな体験がもっと広まって欲しい。</p> <p>【参考写真】</p> 	

事例 1-3	特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク SPAN (東京都港区)
事業名	東北地方の視覚障害者の就労促進のためのフォーラム・指導研修、職業訓練実施事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	77 万円
<p>【事業内容】</p> <p>視覚障害者の就労に関する情報が少ない東北地方の関係者への啓蒙のためのフォーラムと、職業訓練充実のための指導者研修会の開催。</p> <p>また、訓練の機会が少ない視覚障害者に対するパソコンの職業訓練を実施し、スキルの向上を図ることによる、地域の視覚障害者の就労促進。</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者就労促進フォーラム～目が見えないと働けないと思いませんか～ →東北地方の視覚障害者の就労促進を目的に、就労中の視覚障害者に話をしてもらい、職業訓練施設が提供する支援の内容等を紹介。参加者 86 名 ・視覚障害者職業訓練指導研究会～「できない」を「できる」に変える～ →視覚障害者の就労支援関係者 20 名が参加し、支援に必要なスキルを学ぶとともに、抱える問題点を共有し、東北地方での就労促進について討議。 ・視覚障害者を対象とした職業訓練 →フォーラムや研究会での成果をより高めるため、職業訓練を実施。 エクセルやパワーポイントなどを使用した、実務に即した訓練を計 3 回実施。 参加者 40 名。 <p><職業訓練受講者の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる地域では、このような機会がないので、遠くから参加した甲斐があった。 ・同じ視覚障害者を持つ先生が講師でとても感心した。先生は、見えないながらもまるで見えているかのように話をされていて驚いた。 ・今回受けた講習のおかげで、パソコンに対する苦手意識が減った。自分は、弱視で、今まで視覚に頼っていたが、耳で聞けるようになった。 <p>【参考写真】</p> 	

事例 1-4	特定非営利活動法人 群馬ダルク（群馬県高崎市）
事業名	薬物・アルコール依存症者の地域定着及び連携のための社会認知の普及、啓発活動事業
事業種別	社会福祉の増進目的とする事業
配分額	55 万円
<p>【事業内容】</p> <p>群馬県の依存症の認知を進めるための連続講座、フォーラムの開催。また、依存症の家族に対して、依存症者の対応について学ぶ機会を設けるため、「家族の集い」を開催。</p> <p><実施内容></p> <p>①群馬ダルク依存症連続講座の開催 →情報提供を通し、地域との連携・群馬県の依存症の理解・認知を進めるために年間4回開催。（参加者計：128名）</p> <p>②群馬ダルク家族の集いの開催 →家族の方に依存症の説明、対応法を指導し、理解を深めてもらうために開催。 参加者計：12名</p> <p>③群馬ダルクフォーラムの開催 →地域との連携・社会の依存症の理解、認知を進めるため、有識者に講話を依頼し、フォーラムを開催。（参加者計：333名）</p> <p><依存症連続講座参加者のコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習会に参加したのは初めてで、大変勉強になった。普段、薬物依存症の少女と関っていて、今後の勤務の参考になった。 ・薬物依存について学ぶ機会は、なかなかないため、講座に参加できてよかった。当事者だからこそプログラムを行う中で生まれる感情や振り返りがあると思うが、それを聞いたことが一番大きかった。 ・すべての講座に参加しましたが、色々な視点から話を聞くことができ、とても勉強になったし、自分自身ももっと学ばなければいけないと実感した。やはり、経験者が語る言葉はとても重く、響くものがあった。 	
<p>【参考写真】</p>	
	

事例 1-5	特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会（東京都千代田区）
事業名	地球環境観測拠点としての富士山測候所の労力提供型設備事業
事業種別	地球環境保全を目的とした事業
配分額	392 万円

【事業内容】

経年劣化により建造物の損傷が激しい富士山測候所の外壁の塗装補修、外壁鉄板接続部の止水作業、および測候所内の改良作業を行い、CO2 などの地球環境観測拠点として重要な役割を担う施設の維持を図る事業。

<実施内容>

- ・施設の劣化防止対策 → 施設外壁側面の一部塗装
- ・施設内の高温対策 → 換気筒の全面補修
- ・施設の雨漏り対策 → コーキング材劣化部分の補修
- ・通年運用試験用の屋内太陽光パネルの設置 → 50W パネル 2 台の設置
- ・環境観測の実施 → 水銀センサーによる測定を開始



当事業で施設改修維持を図ったことにより、観測施設としての役割を大いに向上させ、結果、活動内容が各種メディアでも取り上げられることとなり、広く施設の重要性を周知することとなった。

<有識者からのコメント>

- ・庁舎内の室温上昇により測器のバックグラウンドシグナルの変動が測定精度に及ぼす影響が問題となっていたが、換気筒の設置により室温の上昇が抑えられて測定データの精度向上に大いに役立った。
- ・越境大気汚染を目的とした観測では、冬から春にもっとも重要なデータが得られるが、これまで商用電源が利用できず夏季のみの測定となっていた。太陽光パネルを用いた測器による無人超冬観測の試みは大きな進歩である。実際に大気環境中で重要である水銀のみならず、他の小電力の測器にもこの手法が応用できるはずなので、研究推進へのインパクトは大きく、拡大し利用していきたい。

【参考写真】



事例 1-6	特定非営利活動法人 美ら海振興会（沖縄県那覇市）
事業名	チービシ・慶良間のサンゴ礁保全のためのサンゴ植え付け事業
事業種別	地球環境の保全を図るために行う事業
配分額	392 万円
<p>【事業内容】</p> <p>沖縄県慶良間諸島本島近隣のチービシ海域で、日本全国から集まった一般ダイバー（延べ 245 名）とともにサンゴの種苗の植え付けを行い、定期的にモニタリングとメンテナンスで生存率の確認と成長度合いの測定を実施。</p> <p>また、船舶の運航により排出される CO2 をカーボン・オフセットし、サンゴ礁の復活と自然保護活動に取り組むきっかけづくりを目指す事業。</p> <p><実施内容></p> <p>①サンゴの被度を回復させ、30 年前の綺麗な海のようにサンゴ礁をよみがえらせるために、サンゴが生息していた場所にサンゴ種苗を集中的に植え付ける。 →造礁サンゴ礁が豊富だといわれている慶良間流域チービシ環礁にて計 1,600 株の植え付けを実施。</p> <p>②サンゴの最適な植え付け方法を確立させるためのデータの収集。 →サンゴの生存率の確認 : 1 か月に 1 度実施。 サンゴの成長率の確認 : 3 か月に 1 度実施。 サンゴ捕食生物の駆除 : 1 か月に 2 度実施。 水中清掃活動の実施 : 1 か月に 2 度実施。 (毎回 20 名程度の参加者と、50kg にもなる大きな網や釣り糸、ブイなどを回収。また、同時に水中駆除活動も実施し、毎回数百～千個のレイシガイダマシとオニヒトデを駆除。)</p> <p>③サンゴの植え付け方法を教えられるダイビングインストラクターの数を前年度 40 名から 10 名増の 50 名に増員し、今後の事業の継続性及び拡大を図った。</p> <p>④サンゴ礁を復活させる意義と地球温暖化防止の重要性の啓蒙活動 →植え付け活動には多くの一般市民の方々に参加いただき、事業の重要性や意義を浸透。年 4 回で総計 245 名の参加者。</p>	
<p>【参考写真】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

事例 1-7	特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会（東京都港区）
事業名	遺贈寄付推進のための人材育成事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とした事業
配分額	330 万円

【事業内容】

日本において遺贈寄付を推進するためには、寄付者の窓口となる士業（弁護士、税理士、司法書士等）や担当者（信託銀行、NPO 等）が法務・税務・会計などの広範囲な知識を有し、トラブルを未然に防ぎ、最適な支援先をアドバイスすることが必要となるため、「遺贈寄付アドバイザー研修（2015 年 8 月 25 日実施）」のコンテンツを元に、全国の士業や担当者に研修を行う事業。

<実施内容>

- ①遺贈寄付の事例や実務、注意点を知る専門家や実務者を育成するための遺贈寄付研修を全国 3 か所で実施。
 - 東京・大阪・佐賀において、研修を実施。延べ研修受講者数は、504 名。
法務、税務、信託、NPO に関する実務的な知識やノウハウを伝えることができ、今後の遺贈寄付の普及につながった。
- ②全国に遺贈寄付を普及するための国内外の事例や全国的な取り組みについて発表するシンポジウムの開催
 - シンポジウム参加者 150 名
国内外の事例や、日本全国に遺贈寄付が普及するための論点や課題の整理ができたことで普及活動のネットワーク化が進み、課題の解決に向けた活動の推進力が高まった。


<参加者からのアンケート>


- ・地方の現実の NPO 関係者との“温度差”“熱量の規模”のちがいにショックを受ける研修でもあった。「遺贈の地産地消」を実現させたい。
- ・大変充実した内容で、今後も継続して開催してもらいたい。
1 日では、時間が足りないので 2 日連続などで開催してほしい。

【参考写真】



2. 活動・チャレンジプログラム

事例 2-1	特定非営利活動法人 湘南市民メディアネットワーク（神奈川県藤沢市）
事業名	「かながわ NPO 映像祭」（映像をツールにした青少年のインターンシップ教育のモデル事業）
事業種別	青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
配分額	50 万円
<p>【事業内容】</p> <p>青少年が NPO 団体の CM 作品を制作し、その発表の場となる「かながわ NPO 映像祭」を開催。また、青少年が、地域で必要とされる社会資源を学び、社会参加及び自己肯定感を高めるため、映像制作講座を開催。</p> <p><主な実施内容></p> <p>①映像制作講座 高校生・大学生が地域で活動する NPO 法人に実際に赴き、その NPO 法人の紹介映像を製作。 参加者合計数：のべ 48 名</p> <p>②かながわ NPO 映像祭 映像製作講座で制作した作品を集め、映像祭を実施。 優秀な作品に関しては、多数の方が閲覧できるよう、インターネット上の動画配信サイトにアップ。 参加者数：82 名</p> <p><参加者コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を作った経験はあったけど、こうして実際に取材に行って、現場の活動や、活動している方々の想いを肌で感じて、CM を通して伝えることの難しさを実感した。 ・ 撮影や取材を行うことは、とても大変なことだったが、作り始めたら凝ってしまい、あっという間の 5 日間だった。 今後、もっとクオリティの高い映像を作りたいと思った。 ・ いろいろ撮りに行ったり、取材などで行くのは大変だったけど、やる意味がある講座だった。 <p>【参考写真】</p> 	

事例 2-2	特定非営利活動法人 エコ・モビリティ サッポロ（北海道札幌市）
事業名	真駒内エリアにおける観光、移動のための自転車タクシーによる交流事業
事業種別	地球環境の保全を図るために行う事業
配分額	50 万円
<p>【事業内容】</p> <p>少子高齢化、人口減少が進む中、南区の拠点となる真駒内エリアにおいて近距離移動手段である「自転車タクシー」を運行し、にぎわい・交流を促し、地域の観光資源を発掘し発信する事業。</p> <p><実施内容></p> <p>①地域内コミュニティカフェや町内会の夏祭り、イベント等で、地域資源等を発掘するためのヒアリング調査を個人 40 名、団体 2 団体に実施。 →ヒアリングにより、歴史的環境や、過去の人々の生活、過去と現在をつなぐ貴重な資料やエピソードを収集。</p> <p>②上記ヒアリングをもとに現地視察を行い、観光ツアーコースを作成 →観光コース : 30 分コース、60 分コースを各 2 コース作成 子ども向けコース : 1 コース作成</p> <p>③改善点把握のためのモニターツアー実施 →モニターを計 3 回実施、計 29 名参加</p> <p><モニターツアー参加者アンケートの結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々見ることが出来て良かった。家と家の間に小路があり、もっと見てみたい。 ・ゆったりと町並みを見ることができたし、歴史や何かのテーマに沿った道のりを案内してくれたのでとても良かった。 <p>※モニターツアー参加者でアンケート回答人数 9 名中、9 名が「とても満足」を選択（とても満足・やや満足・どちらとも言えない・やや不満・とても不満 から選択）</p>	
<p>【参考写真】</p> 	

事例 2-3	特定非営利活動法人 メリーゴーランド (秋田県能代市)
事業名	子どもたちの「生きる力」を育むための冒険遊び場づくり事業
事業種別	青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
配分額	50 万円

【事業内容】

少子化が進み、ゲームやパソコンなど個人で遊ぶことが増えている中で、子どもたちが集まって遊べる場を提供するとともに、「ロープ遊び」やのこぎり、金づちを使った遊びを通じて、さまざまな知識や能力を身につけさせることを目的とした事業。

また、遊び場で子どもたちのサポートをするプレリーダーの育成。

<実施内容>

・ 児童公園等での冒険遊び場の開設

→参加する保護者や地域住民、また参加しなくても遊ぶ様子を見ている人たちからも「このような遊び場は必要」との言葉をいただいた。

年間7回開催し、のべ70人程度が参加。

・ イベントブースでの冒険遊び場の開設

→市民活動支援センター等が開催するイベントブースで冒険遊び場を開設。

年間9回開催し、1回あたり100人～150人程度参加。


イベントブースに積極的に参加することで、参加者の増加だけでなく、当該活動に興味を持ち、賛同いただいた方が、後日ボランティアとして参加していただくなどの成果も出た。

<参加者の感想>

- ・ 家では絶対にできない遊びができて、とても楽しかった。こういった場所が常にあると大変うれしいです。
- ・ 初めて参加しましたが、子どもたちが非常に楽しそうで良かった。次回、また開催する時も必ず参加したいです。
- ・ このような遊び場は初めて見ました。保護者同伴ではなく、子どもだけで行かせることができれば、もっと良いと思う。
- ・ 毎回は参加できませんが、手伝わせてください。
- ・ 能代でも遊び場があっとうれしかったです。

【参考写真】



事例 2-4	公益社団法人 全国少年警察ボランティア協会（東京都千代田区）
事業名	インターネット利用に係る非行及び被害防止対策の推進のためのセミナー事業
事業種別	青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
配分額	50 万円
<p>【事業内容】</p> <p>未成年者がインターネットの不適切な利用によって非行に走ったり、犯罪被害に遭ったりすることのないよう、日常の少年補導、非行防止教室の講話、インターネット利用によるサポート活動（インターネット上を探索して、不適切な書き込みをしたり有害サイトに関わる少年を指導したり、大人には警告等を与える活動）等を通じて、被害の防止に取り組む事業。</p> <p>本事業では、より効果的な推進のために現状の把握・スマホや携帯の機能の理解度の向上を目的に昨今のインターネットの利用状況についての研修を実施。</p> <p><実施事業及び成果></p> <p>ボランティア等関係者に対する研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 7 月 8 日（金） 東北管区地区（宮城県）115 名参加 ・講師 4 名による講演、冊子配布 <p>→この研修により（現在、サイバーボランティア指定員は、111 名存在）研修前の実際の活動者は、12 名であったが、55 名に増加。</p> <p>平成 27 年度の学生のボランティア委嘱・登録数は全国で 2,826 名であったが、平成 28 年度は、3,021 名と 195 名増員。</p> <p><研修参加者のコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題提起、現状把握、被害防止対策の流れがよくわかり大変有意義な研修だった。 ・多方面の多彩な講師からのネットに関する様々な知識を聴講することができ、とても勉強になった。 ・インターネットの危険性は十分認識しているつもりであったが、医学的・犯罪的な多面に亘る講義は、知らないこともあり、充実していた。 <p>【参考写真】</p> 	

事例 2-5	特定非営利活動法人 すいた体験活動クラブ（大阪府吹田市）
事業名	児童たちが校庭で「二毛作」と「地産地消」を実体験する学習支援事業
事業種別	青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
配分額	50 万円

【事業内容】

都市化がすすむ吹田市内の小学校 11 校で、5 年生の児童 28 クラスを対象に、校庭にミニ田んぼを作り、児童たちが年間を通して、稲作やタマネギの栽培を行い、「二毛作」や「地産地消」を実体験。また、水田に集まる虫や鳥の観察や調査を行うなど、学びに広がる体験学習を支援する事業。

<実施内容>

- ・実施小学校 : 11 校
- 参加児童 : 延べ 7,261 名
- 参加保護者 : 79 名
- ・収穫物
 - 11 校合計で、タマネギ 4,259 個、お米（玄米）80.2kg を収穫。
 - 収穫したタマネギやお米などの一部を給食の食材として使用し、実施小学校の全校生徒が「地産地消」を実感。
- ・児童たちが田んぼなどで、28 種類の鳥や虫を見つけ、実際に触れ、観察を行った。

<先生及び参加児童たちの声>

- ・田んぼをつくるのはとても大変でできなかったけど、楽しかったし、お米がたくさんできてうれしかった。
- ・校庭で、こんなにおいしいお米やタマネギが育つなんて、びっくりした。
- ・お米作りは本当にきつかった。農家の人たちの大変さがよくわかった。
- ・自分たちで作ったおにぎりは日本一おいしかった。こんなにおいしいおにぎりは生まれてはじめて食べた。
- ・環境教育は、子どもの時から一緒に実体験を通して納得させることがいかに重要かを理解できた。この体験学習は非常に有意義でした。

【参考写真】



事例 2-6	公益財団法人 神奈川県聴覚障害者協会（神奈川県藤沢市）
事業名	高齢聴覚障害者など地域で孤立している聴覚障害者のための巡回相談支援事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	30 万円
<p>【事業内容】</p> <p>高齢による身体機能の低下や病気により遠方への移動が困難な聴覚障害者や、重複障害など何らかの理由により社会から孤立している聴覚障害者のために、聴覚障害者相談員が地域に赴き、相談を行い、社会生活の確立の支援を行う事業。</p> <p>設置手話通訳者がいない、もしくは、いても支援体制が弱いと思われる 9 市町村 10 か所を巡回し、福祉センターなどの公共施設の会議室を借用し、巡回聴覚障害者生活相談を実施。併せて、高齢による身体機能の低下などの事情により相談会実施日に会場に行くことができない対象者に対し、対象者の自宅及び居住している施設や、当団体が実施している巡回ミニデイサービスの会場に赴いて相談業務を行った。</p> <p>また、市町村で聴覚障害者の相談を担当している職員及び設置手話通訳者などを対象にした相談担当者研修を実施。</p> <p><実施内容></p> <p>①市町村への巡回相談会 →8 月 26 日～11 月 24 日までに計 10 回相談会を実施。 相談件数は、計 11 件。</p> <p>②対象者の自宅及び施設への訪問相談会 →8 月 8 日～翌年 1 月 27 日までに計 8 回の訪問相談を実施。 相談件数は、計 10 件。</p> <p>③市町村で聴覚障害者の相談を担当している方等に対する研修 →聴覚障害者相談の専門性を高めるための研修を 1 度実施。</p> <p><事業実施結果></p> <p>訪問による相談会を実施したことにより、対象者本人のみならず、対象者の家族と話をする機会を持つことができ、親族から対象者に関する相談を受けるなど、本人への支援についての助言を行うことができた。</p> <p>親族等と同居していても問題が全くないわけではなく、本人も親族も気づかない問題が潜在している可能性があり、こちらから訪問しアプローチすることで潜在的な問題を掘り起こす必要があると実感できた。</p>	
<p>【参考写真】</p> <p>The left photograph is a flyer for a hearing-impaired consultation event. It features the title '聴覚障害者のための巡回相談会' (Itinerant Consultation for Hearing-Impaired People) and the slogan '手話でもOKです。' (Sign language is also OK). The flyer includes information about the event being held in Sagami City, Sagami Ward, and mentions that it is a project of the Sagami Prefecture Hearing-Impaired Association. It also states that the event is for hearing-impaired individuals and their families, and that it is free of charge. The right photograph is a schedule table for the event. The table lists the dates, days of the week, and locations for ten consultation sessions. The locations include Sagami City, Sagami Ward, and Sagami District. The table also includes a map of Sagami City and Sagami Ward, and a note that the event is held from 10:00 AM to 12:00 PM.</p>	

事例 2-7	特定非営利活動法人 芸術資源開発機構（東京都杉並区）
事業名	高校生の「生きる力」をはぐくむための美術鑑賞教育を変革する事業
事業種別	青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
配分額	45 万円

【事業内容】

美術教科担当教員と連携し、①明治以来の学校教育改革の目玉と目される「アクティブ・ラーニング（生徒が自ら携わる）」を美術鑑賞教育のプログラムとして開発・普及する。②中心となる「アートゲーム（作品の共通点などを探す美術鑑賞ゲーム）」の進行役（コミュニケーター）として生徒を育成する。③高校生コミュニケーターが放課後等の時間を使い近隣中学校で活動を行う。

東京都立高等学校美術工芸研究会と協働の美術鑑賞教育プロジェクトを設置し、授業プログラム、効果測定方法等について研究を実施。また、広く一般教員も含め実技研修会、プログラム体験検討会を実施。

<実施内容>

①アートカードを使用した実技研修会の実施

→アートカードを新たに2種類購入し、実技研修会を2回、個別相談・支援を6校（延べ7回）で行った。

・取り組み校の環境取材、実施要領の研究

→取り組み校6校（延べ7回）訪問し、高校生の多様性や現場の実態の調査を実施。

・チャレンジスクールの開催

→地域貢献の新たな取り組みとして、高校生が地域の小学生や町内高齢者とアートゲームで交流。

・協働プロジェクトの設置

→東京都高等学校美術工芸教育研究会と連携し、当事業を推進するプロジェクトチームを設置。委員会を6回開催。


<参加者の声>


- ・言語活動の充実、表現力の向上に役立つ事業だ。
- ・対人関係に課題のある生徒にチャレンジする取り組みとして、このようなものがあると知り、とても勉強になった。
- ・これを行うと、生徒が受け身から主体的に動くことができそうだ。
地域の交流にアートカードを使うのも新鮮で良かった。
- ・地域貢献、世代間交流ができ、教育効果も高いと実感した。

【参考写真】



3. 施設改修


事例 3-1	特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校（青森県西津軽郡）
事業名	白神自然学校一ツ森校施設の屋根の腐食・雨漏り・安全確保対策のための改修事業
事業種別	青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
配分額	500 万円
<p>【事業内容】 世界遺産である白神山地で、廃校になった小学校を利用し、山や川・海の自然を創造的に活用した自然体験の活動や、簡易宿泊等を実施している施設の屋根の改修。 その結果、改修前、強風により屋根のトタンが飛ぶなどの危険性があったが、解消されて安全性の確保につながった。また、宿泊利用者の増加に伴い、年間収入が 1,100 万円から 1,700 万円に増加した。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	


事例 3-2	特定非営利活動法人 どんぐりコロコロ（岡山県津山市）
事業名	障害福祉サービス事業所の薪小屋兼倉庫の収容力不足解消のための改修事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	85 万円
<p>【事業内容】 生活介護利用者が取り組んでいる資源回収作業において、支払い工賃の向上を図るため、改修品の保管場所として不足していた倉庫の収容力を増加するため改修。 改修の結果、資源回収量の年間合計が、2015 年度 17,559kg から 2016 年度 19,507kg と約 2,000kg の増加。（内訳：内アルミ缶・ペットボトル・段ボール・新聞紙） さらに、支払い工賃についても、2015 年度年間 113,556 円から 2016 年度年間 136,984 円と約 23,400 円の増加を達成した。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	


事例 3-3	特定非営利活動法人 地球の緑を育てる会（茨城県つくばみらい市）
事業名	育苗施設の苗木冬越し用温室のビニール破損の修繕事業
事業種別	地球環境の保全を図るために行う事業
配分額	80 万円
<p>【事業内容】 海外の砂漠緑化活動、国内各地の自治体および企業の森林再生事業に苗木を提供するため広葉樹を育苗しているが、老朽化により適切な冬越しができない状態にあったビニールハウスの修繕を実施。 改修の結果、苗木の出荷本数が前年度の 7,500 本から 10,000 本に増加。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	

事例 3-4	特定非営利活動法人 九州補助犬協会（福岡県糸島市）
事業名	当法人事務所兼訓練施設の障害者用車いすスロープ設置及び補助犬等訓練・飼育管理設備改修事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	360 万円
<p>【事業内容】 補助犬（介助犬、盲導犬、聴導犬）やセラピー犬の育成・訓練・貸与・普及・啓発活動を行う施設を、車いす利用者が負担なく利用できるためのスロープ設置。 今回、車いす用スロープを設置したことで、施設内での面談や打ち合わせが可能となり、相談者の施設へのアクセスが物理的・心理的に容易になった。また、補助犬等のグルーミングや手入れに関するスタッフの時間的負担を減少し、より効率的に多くの補助犬やセラピー犬の訓練・管理が可能となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セラピー犬活動 のべ 48 回実施 ・補助犬啓発活動 のべ 20 回実施 	
<p>【参考写真】</p> 	

4. 機器購入

事例 4-1	特定非営利活動法人 ひまわりの家（広島県三原市）
事業名	野菜運搬にかかる負担軽減のための什器備品導入事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	13 万円
<p>【事業内容】</p> <p>毎日の野菜箱（約 20kg）段ボールを運ぶ利用者の負担を軽減させるとともに、受注量の増加及び工賃アップを図るため低床プラコントローラーおよびコントローラーセンスを購入。</p> <p>導入後、利用者の負担が軽減し効率もアップ。事業収入は年間 1,893 千円から 2,645 千円に、1 人当たり工賃も 16,500 円から 25,000 円に増加。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	

事例 4-2	社会福祉法人 朝来市社会福祉協議会（兵庫県朝来市）
事業名	デイサービスセンターかしのき園ご利用者に安心・安全をお届けする最新特殊浴槽設置事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	300 万円
<p>【事業内容】</p> <p>重度な介護状態にある利用者が安心して入浴できるよう、最新型の特種浴槽を購入。以前使用していた特殊浴槽は、ストレッチャータイプだったため、寝たままの体勢にならなくてはならず、羞恥心により入浴を拒否される方もいたが、今回リクライニングタイプの導入により、体勢も羞恥心が軽減できる入浴支援が実現可能となり、1 日平均 2 名の利用者に気持ち良く、安心して入浴いただけることになった。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	


事例 4-3	特定非営利活動法人 秋川流域生活支援ネットワーク（東京都あきるの市）
事業名	新設する重症心身障害者グループホームの介護等の充実のための介護機器設置事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	241 万円
<p>【事業内容】</p> <p>重症心身障がい者の方が利用する施設へ、浴室用リフト等の介護機器を設置。</p> <p>機器設置により、職員の介護負担が大幅に軽減されるとともに（介護が原因の腰痛の改善・働く環境が原因による離職0人等）、機器の利用により、移乗による介護中の転倒事故をなくすなど、利用者の安全確保も実現。</p> <p>【参考写真】</p> 	


事例 4-4	特定非営利活動法人 ウッディ阿賀の会（新潟県新潟市）
事業名	間伐材・枝打ち材を活用した環境教育空間造成のための粉碎チップーおよび運搬車の新規設置事業
事業種別	地球環境の保全を図るために行う事業
配分額	114 万円
<p>【事業内容】</p> <p>間伐材を山林から搬出するための動力運搬車と、木材をチップ化するための粉碎チップーを購入し、森林の整備活動に活用。</p> <p>伐り捨てていた木材の搬出・撤去が可能となり、山林の美化に繋がるとともに、薪やバイオマスエネルギー材としての活用の道が開かれ、資源循環型の取組を推進。</p> <p>間伐材を年間約 5t、薪材として約 100 本を搬出。エネルギー循環を図り、里山機能再生の一助となった。</p> <p>【参考写真】</p> 	

5. 車両購入


事例 5-1	社会福祉法人 秋田ふくしハートネット（秋田県仙北市）
事業名	「特別豪雪地帯」に立地する通所障がい者施設の除雪車（ミニホイロローダー）新規購入事業。
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	200 万円
<p>【事業内容】 施設利用者の安全性確保のため、これまで人手で行っていた排除雪作業を、安全かつスピーディーに行うため、機動性の高いミニホイロローダーを購入。 ホイロローダー購入前は、委託により排除雪を行っていたが、職員が作業することで委託費が年間 630 千円から 67 千円となり、経費削減も図ることができた。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	


事例 5-2	特定非営利活動法人 あしの会（北海道札幌市）
事業名	地域活動支援センターへの利用者の通所の為の車いす対応送迎車両の更改事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	200 万円
<p>【事業内容】 障がいのある方にも積極的に活動してもらうため、車いす対応車両を配備。 車両に手すり・固定ベルト（車イス用）を付け利用者の安全性及び快適性が向上するとともに、職員の負担も軽減。利用者満足度も向上し、新規利用者も 2 名増加した。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	


事例 5-3	特定非営利活動法人 農楽郷ここ・カラダ（※旧名：農楽郷 hibiki）（青森県十和田市）
事業名	就労継続支援 B 型事業所「カシスのしずく」の生産品運搬用車両導入事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	160 万円
<p>【事業内容】</p> <p>施設利用者の工賃アップを図るため、収穫したカシス等の鮮度を保ったまま運搬できる冷蔵冷凍車を配備。</p> <p>配備により、安定した運搬加工体制を構築できたことで、利用者の平均月額工賃が 20,500 円から 22,390 円に増加。また、今後の増産を図るため、植付け面積を 42a から 80a に拡大。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	

事例 5-4	社会福祉法人 ふじみ野市社会福祉協議会（埼玉県ふじみ野市）
事業名	ふじみ野市社会福祉協議会大井支所の貸出用福祉車両の更改事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	175 万円
<p>【事業内容】</p> <p>車いす使用者及び外出をする際に車いすを必要とする障がい者が、積極的に社会参加するための貸出用福祉車両の配備。</p> <p>一般市民を対象とした貸出を行ったことで、市民の福祉活動への理解を深めることにも繋がった。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	

6. 東日本大震災の被災者救助・予防（復興）

事例 6-1	特定非営利活動法人 みやぎ子ども養育支援の会（宮城県石巻市）
事業名	被災地（石巻市とその周辺地域）の子育てを支援する事業
事業種別	東日本大震災の被災者救助・予防（復興）
配分額	350 万円
<p>【事業内容】</p> <p>①被災地での生活困窮・離婚・病気などの理由で子どもを育てられなくなった家庭の児童を受け入れて養育しているファミリーホーム「子どもの家きむら」を支援する事業。</p> <p>②地域に出て、子ども同士、子どもと大人・高齢者、子育て中のお母さん方が交流し、相談し合える機会を提供する事業。</p> <p>＜ファミリーホーム支援事業＞</p> <p>①新規スタッフの採用 →現在、高校3年生3名（特別支援学校1名）、高校1年生1名、中学校3年生1名、小学校3年生1名の計6名（定員6名満杯）を受け入れ。 受け入れ当初不登校だった高校生が無事に卒業し、保育士を目指して短期大学に進学、低学力だった中学生も勉学に励むようになり、無事高校に進学、不登校だった女兒も新学期から通学を開始するなどの成果。</p> <p>②ホームキッチン（食堂兼リビング）の拡張 →改修前と比べると約1.5倍程度に拡がり、子どもたちの誕生日会やクリスマス会などのホームパーティーの開催が可能となった。</p> <p>＜地域の子育て支援＞</p> <p>①お母さん方の気分転換及び情報交換を図るため「にこにこママサロン」を年1回開催、「コミュニティーサロン」を年7回実施。</p> <p>②子どもたちが集まり、季節の伝統行事等に取り組む「にこにこクラブ」を年6回開催。親・子どもだけでなく、地域の高齢者も参加してもらい、地域の交流を深めることが出来た。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	

事例 6-2	特定非営利活動法人 生命と環境保全（宮城県白石市）
事業名	みやぎ山元地区海岸防災林再生活動のための事業
事業種別	東日本大震災の被災者救助・予防（復興）
配分額	112 万円
<p>【事業内容】</p> <p>東日本大震災の大津波で被災した宮城県亘理郡山元町に、津波被害軽減効果が高く、農地や居住等を潮害から守る「環境保全機能」を持つ海岸防災林を再生させるための活動事業。</p> <p><実施事業></p> <p>①土壌改良の実施 →苗木の根が自由に伸びる「有効土層」をつくるため、機械で掘り上げて、発生した土に堆肥等有機物と山砂を人力で混ぜ戻しを行い、小さなマウンドを造成。</p> <p>②「山元町のみらいをつくる 2016 植樹祭」を開催 →参加者 : 82 名、うち山元町からの参加者 26 名。 植栽本数 : 抵抗性クロマツ 770 本、コナラ他 3 種 193 本、 合計 963 本 生存率 : 抵抗性クロマツ 770 本 (100%)、コナラ他 3 種 69 本 (36%) 合計 839 本 (87%) 伸長量 : 植栽時、平均 15cm 2017 年 3 月 29 日時点平均 35cm 年間平均伸長量 20cm</p> <p>③下刈の実施 →巨大な草は、繁茂・再生力が旺盛なため、年 3 度（6 月下旬・8 月下旬・11 月下旬）の下刈を実施。 また、次年度以降の作業省力化を図るため、11 月下旬より防草効果のある育樹マットを敷設。</p> <p><地元参加者の声></p> <p>・ 町外の人が木を植えてくれるのは、地元住民として本当にありがたいことです。</p> <p>【参考写真】</p> 	

事例 6-3	特定非営利活動法人 北海道ふるさと回帰支援センター（北海道札幌市）
事業名	被災者のための居住地に関する相談支援を中心とした生活の質（QOL）の向上事業
事業種別	東日本大震災の被災者救助・予防（復興）
配分額	326 万円
<p>【事業内容】</p> <p>東日本大震災において、札幌市及びその周辺に避難されている方々に対して、移住をはじめとする生活環境に関する情報をニュースレター等で提供し、定期的な相談会と市町村への現地訪問などを行うとともに、避難されている方々との交流会を実施する事業。</p> <p>①ニュースレターの発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発行数 1,100 部 発行回数 10 回 の計 11,000 部を発行 ・現地の仕事の情報や市、町の特徴の紹介など、移住に関する情報提供を実施。 <p>②移住相談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 5 回実施し、参加人数 39 名（相談会の定員 8 名） <p>③現地（移住予定）訪問の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 5 回実施し、参加人数 26 名 ・自治体を訪問し、避難者に先輩移住者（避難者含む）の話を聞く機会を提供。 <p>④被災者と地域住民との交流会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 2 回実施し、参加人数 80 名 ・じゃがいも堀り、餅つきを実施し、子どもたちの交流及び親同士の交流の場として実施。今の子どもたちは、ふるさとでの餅つき経験がほとんどないため、新鮮なイベントとして楽しみ、高齢者との交流としても好評だった。 ・1年にこの交流会でしか会うことのない方々の交流の場となった。子どもを連れて過去にも参加したことのある家族は、お互いの子どもの成長などの話題で盛り上がり、今後もこの事業を継続して実施して欲しいとの声が多く挙がった。 	
<p>【参考写真】</p>	
	

事例 6-4	特定非営利活動法人 吉里吉里国（岩手県上閉伊郡）
事業名	大槌の地域復興のための森林の再生と人材育成事業
事業種別	東日本大震災の被災者救助・予防（復興）
配分額	338 万円
<p>【事業内容】</p> <p>①森林の整備・間伐による森林の再生 ②森林資源の有効活用としての「薪」の生産 ③森林空間を活用した人材育成を行う事業</p> <p>＜実施事業内容＞</p> <p>①森林の保全整備による森林再生事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数 50 名、作業面積 50ha を確保。 保全整備を 1 年間実施。林業による被災者の雇用（3 名）を確保し、森林の再生のみならず、雇用による地域の活性化にも貢献。 <p>②薪等の生産出荷による自主事業収入の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林整備で出てくる間伐材から薪などの生産を行い、地域の需要家への供給を実施。薪や建築用材を販売し、年間 410 万円の売り上げ。 また、環境への負荷が少ない薪というカーボンニュートラルの燃料を供給することで、持続可能な地球環境の維持にも貢献。 <p>③森林空間を活用した人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業学校の開催 →林業技術の習得・伝承のための学校（失われつつある「暮らしの伝統技術」の普及と後継者育成を行う）を年間 12 回開催。 ・森林教室の開催 →自然と共存できる暮らしを育む教室（特に子どもたちを中心とした人材づくり）を年間 9 回開催。 <p>④各種イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薪まつり 参加者 389 名 薪の湯まつり 参加者 123 名 山神まつり 参加者 59 名 <p>→地域の大勢の方に参加してもらい、地域のコミュニティーの再生、活性化に寄与。</p>	
<p>【参考写真】</p>	
